

教え子を再び 戦場に送るな

2面・県教育のつどい特集



第428号
2017年
12月13日

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyouso.jp/
e-Mail info@s-koukyouso.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

子育て支援改善 小学3年生まで 臨時的任用の特別休暇 大幅な改善

教育長回答

- ◆17年度給与改定に関して
人事委員会勧告どおり実施。12月県議会に提案する。技能職の給与改定についても一般職員と同様の扱い。
- ◆退職手当は国に準じて、条例改正し平成30年1月実施とする。
- ◆新たな人事評価制度導入について、平成31年4月から、半年を期間とした人事評価制度を実施する。評価結果を12月期の勤勉手当に反映させる。来年は困難度を廃止した評価シートを用いて試行する。
- ◆部活動ガイドラインは国が策定され次第速やかに県のガイドラインを通知する。ガイドラインに掲げるポイントを年明けに通知する。
- ◆子育て支援、部分休業改善、子の養育をする職員対象。就学前から小学校3年生まで延長、障害のある子は18歳までとする(新設)。
- ◆臨時的任用教職員に関して、赴任時の打ち合わせ等は出張扱い。転居による異動は赴任旅費を支給する。特別休暇全てについて正規職員と同様とする。
- ◆特殊業務手当、600円引き上げ3600円。

高教組は12月4日、第4回教育長交渉を行いました。木藤委員長以下13名が参加しました。教育長は17年度給与改定について、人事委員会勧告どおり実施すると回答、4年連続の引き上げ改定となりませんでした。12月県議会を経て、年内に差額支給となる見通しです。退職手当見直しも同様に扱うとし、強行姿勢は崩れませんでした。

給与改定以外、臨時教職員の特別休暇の大幅改善。子育て支援就学前までを小学3年生まで延長、障害児の支援は18歳までなど長年の要求が実現しました。

引き上げ回答ですが、18年4月に現給保障措置が終了すれば、高位号給では賃下げとなります。公務労働者の生活改善には不十分な内容です。

退職手当80万円超の引き下げ

12月に国が退職手当法を「改正」、県も条例「改正」を12月県議会で行い、1月実施と回答。激変緩和措置、実施時期引き延ばしにも応じず、国に準じて見直し強行の姿勢を崩していません。

4年連続の引き上げ回答

給与改定の内容は、月例給・一時金の国並み改定に加え、昨年見送った配偶者に係わる扶養手当は18年度10000円、19年度65000円に引き下げ、子に係わる扶養手当は7500円から8000円に引き上げなど内容です。(既報)

給与制度の総合的見直しで70万円余、今度の見直しで80万円超の引き下げを強行、退職後の生活設計への影響だけでなく、現役世代のモチベーションにも係わってきます。

臨時教職員の特別休暇 長年の要求が実現

教育長は「正規職員と同様の仕事をしている講師の待遇改善を何とか行いたいと心を尽くした」と述べ、赴任先での打ち合わせ等への出席は出張扱い、赴任旅費も支給するとし、さらに特別休暇は正規職員と同等にする

と回答しました。18年4月から家族休暇3日、看護休暇5日、結婚休暇7日、配偶者の出産休暇3日などの特別休暇(有給)が取得可能となりました。これまでの要求が一気に実現しました。給与面を除き均等待遇に近づきました。

新たな評価制度の実施 スケジュールを提示

導入スケジュールは示されましたが、評価結果の給与への反映は教育破壊をもたらすとしてこれまで高教組は強く反対をしてきました。

子育て支援、就学前から小学3年生まで延長

部分休業(無給・勤務時間のはじめ又は終わりに1日2時間以内)に関して、大きな改善となりました。小学校3年生まで延長、障害児童に関するこれまでになかった規定をつくり18歳までとしたことは評価できま

す。あわせて制度の円滑な運用のために、取得を容易にする職場環境の整備が求められています。

速やかに県のガイドラインを通知するとしていますが、年度末策定では、新年度からの対応が間に

合わず、実効性に影響が出るのではと懸念されます。迅速な策定周知が重要です。

18年4月から、部活動手当は6000円引き上げられ、4時間以上3600円、対外運動競技、修学旅行は7時間45分以上8500円引き上げ5100円となります。

3年ぶりの改定ですが、当初文科省が示した倍額には及んでいません。

高教組が実施するアンケート結果からも給与への反映に反対とする声は多数を占めています。導入日程を示したからといって拙速に導入することは許されません。交渉ではスケジュールも含め今後協議・交渉を継続していくことを確認しています。

大きな課題として取り組みを強めていきます。12月21日、26日に専門部交渉を行います。回答を検討し、具体的な内容や今後の課題、要求等について交渉します。ご協力をお願いします。

主張

県教育委員会は11月高等学校第三次長期計画案を公表し、県立8高校2定時制課程を統廃合、再編する計画を明らかにしました。

少子化、生徒減を主な理由としています。地域と密接に結びついている学校の統廃合は定員に満たない、希望生徒が少ないからといって機械的にすすめることはできません。計画をすすめるには多くの問題が生じ

ます。なかでも定時制課程の統廃合については解決しなければならぬ課題、問題が多くあります。

定時制高校の募集停止は再考を

定時制に通う生徒は多様化し、不登校、AS

導が可能な定時制高校はプラットフォーム的な役割を果たし、学び直しの場、居場所となっています。

生活困窮家庭の実態は事例を挙げればきりがなく深刻な状況で

もいます。給食だけが唯一の食事という子どもが不登校生徒は増えています。他県では定時制統廃合の結果、中卒無業者の問題が生じたことも報告されています。

様々な事情と困難を背負った生徒、子ども達にとって、定時制高校は大きな存在であり、必要な学校です。

第三次計画で対象とされた藤枝東高校と島田商業高校定時制課程の24年度からの募集停止は、さらに意見を集約、検討し、期限ありきでなく再考するよう強く求めます。

視座

15人に1人。発達障害の人の割合です。教室に二、三人いる計算。発達障害の人の割合です。

高教組 ボーナスカンパにご協力下さい。

語り、学び、交流し、 高校生・大学生も参加して — 静岡県教育のつどい —



第10回静岡県教育のつどいが11月25日、26日に駿河総合高校で開催され、2日間で約150人の参加がありました。全体集会、講演、ワークショップ、分科会、交流会、もちつき、全教共済カフェと多彩な内容で参加者は大いに語り、学び、交流しました。

小・中・高を見通した 主権者を育てる授業・学級づくり

小学校、中学校、高校 ともある。レポートを通じて三つの授業実践報告がなされた。どのレポートも、他者との関わりあいの中で学ぶこととおして自己肯定感を高め、仲間とともに課題を追究する子どもたちの姿が印象的だった。

高校の実践では、多様な背景を持つ定時制の生徒たちに寄り添いながら、生涯にわたる「学び」の仕方をつかませる点が興味深かった。生徒たちは世界のガイドブックづくりをとおして、自分の興味関心を豊かに広げている。その国独自の課題と思われたものから、地獄の課題が見えてくること

(小長谷清乃)

特別な支援を必要とする人たちの「学び」をどう保障するか

中学部で重度重複障害児を対象とした集団での滑り台の授業実践について、顔や手指など接触過敏のある児童生徒への手遊び歌での実践例の紹介や、事例児を挙げて効果的だった手立てや支援の成果等のお話を聞きました。

手遊び歌では、「自分

が主体的に発信する・伝える喜び」や「相手に伝わったと実感する喜び」、また「自分が伝えることで相手と同じ動きで応えてくれる喜び」、それから「自ら表現する楽しさ」や相手と絡み取り組むことで「鏡がなくてもボディイメージに繋がる良さ」などを改めて感じました。

実際の指導や支援では、隣りで大人である教員がまずやって見せる。それを見て、興味関心をもって児童生徒が初めて真似てみる。そこで安心感や楽しさを習得及び体感する。その学習の成果を次の課題に繋げたり繰り返したりすること、力をつけ定着を図る。その基本原理に立ち返ることができました。

(中川文子)

子どもの貧困 —食・生活・学習—

学習支援ネットワーク



新しいルールと新しい社会の在り方を作り出す態度。つまり、主権者意識を育てることで、民主主義につながる。道徳教育に必要な教員の能力は、主権者意識と参画意識、市民社会(政治)への注目である。

子ども哲学の歴史は、40年くらい。哲学対話の特徴は、問いを自分たちで立てること。基本は、問い、話し、考えること。「なぜ?」「どう?」「意味?」「具体的には?」「まとめる?」「幼い子で

二日目 全体会

河野哲也さん講演 要旨

道徳教育から 市民教育へ

従来のしつけ教育は、個人が中心であったが、それではなく人間関係構築というものを考えるべき。親を敬うとか、伝統文化を大切にすることは時代にあわなくなっている。

規律やルール中心の教育は、具体的な判断や行動を導けない。嘘をついた方がいい場合もある。身の回りの道徳性だけ

今ある集団に適応 することではない

日本はとくに大規模集団、中規模集団における道徳性に問題がある。対話のない会社、組織は不正に流れやすい。命令が縦に流れている社会は、分断されやすい。対話の双方向性のあるところは、事故や不正がおきにくい。曖昧さへの耐性



も必要。もやもや感が大事で、すべてクリーンになることはない。対話のあともやもや感が残ったら哲学対話は成功。道徳とは今ある集団に適応することではなく、よりよい集団をつくること。皆で議論して物事を決めていくこと。常識を問い直し、自分たちが

哲学対話による 道徳教育

子ども哲学の歴史は、40年くらい。哲学対話の特徴は、問いを自分たちで立てること。基本は、問い、話し、考えること。「なぜ?」「どう?」「意味?」「具体的には?」「まとめる?」「幼い子で

(SSS)は、県立大学など市内の大学生のサークルで、5年前から週一回中学生に勉強の支援をしています。

若者エンパワメント委員会(YEC)は、8年前に発足し、中学生高校生が「自分のやりたいこと」を企画して実現するサポートをしています。

「ふじのくに学校給食を考える会」の小栢和子さんからは、富士市で継続する自校方式の給食の意欲や地産農産物を使用することの大切さなどが語られました。

スクールの川口正義さん

「困難さ」への支援

困っている人たちがどう支援するか。就学前の幼児通園施設、特別支援学校、単位制・定時制高校、障害児者を受け入れる学習塾、放課後支援事業所などの参加者が、それぞれの様子と日頃の取り組みを紹介しました。

発達障害があると、周囲となじめず孤立したり、さまざまな問題行動を起こしがちですが、支援によって、コミュニケーション力を学び、学力や自信を取り戻しています。

松浦塾で「個別授業」を受けている38歳の方は、心が折れることもありませんが、学ぶ楽しさを知ります。自信を持ち始め、ますますやる気になっていきます。

定時制高校のある生徒は、国語教材のアニメをきっかけに、言葉の背景にあるイメージを描くことができるようになります。初めて「夢を見る」ことができました。

幼児期から成人まで、それぞれの年齢を支援する人たちのコラボが必要、とてもいい機会になったね。参加者一同ほっこりしました。

(横村雄司)

死ぬというのはどう感じるか 子ども哲学ワークショップ

小学生から大学生まで選んだ「死ぬというのとはどういうことか」「生きるとはどんな意味があるのか」。その深い内容のテーマに驚く。

コミュニケーションポールと呼ばれるふさふさしたボールを使い、発言者に回していく。抽象的な考えを、直ぐには言葉にできない子どももいるが、決して急がせない。ゆっくりと時間を取って考えることで、皆の思考を深める。

小学生から大学生という異なる年齢集団が、ひとつのテーマを果たしてうまく話し合うことができるのかという大人の心配をよそに、子どもたちの思考は確実に深まってくる。

1時間半ほど経ってからは、それまで外側で見て守っていた大人たちと選手交替。大人たちの対話は確かに経験を積んだものではあるが、基本的には子どもたちの対話の内容を超えるものではない。

日本人が、特に集団において道徳性に欠け、取り返しもつかないことをしてしまうのは、トップダウンの組織が持つ脆弱性や、各個人の参画意識、主権者としての意識が欠けているからだという。子どもたちは対話し考える力を持っている。学校の中で、少しでも時間を取って、生徒に考えさせ、対話の場を作って主権者を育てていくことが大切だと強く思った。

(山口良二)



小学生から大学生まで選んだ「死ぬというのとはどういうことか」「生きるとはどんな意味があるのか」。その深い内容のテーマに驚く。

コミュニケーションポールと呼ばれるふさふさしたボールを使い、発言者に回していく。抽象的な考えを、直ぐには言葉にできない子どももいるが、決して急がせない。ゆっくりと時間を取って考えることで、皆の思考を深める。

小学生から大学生という異なる年齢集団が、ひとつのテーマを果たしてうまく話し合うことができるのかという大人の心配をよそに、子どもたちの思考は確実に深まってくる。

1時間半ほど経ってからは、それまで外側で見て守っていた大人たちと選手交替。大人たちの対話は確かに経験を積んだものではあるが、基本的には子どもたちの対話の内容を超えるものではない。

日本人が、特に集団において道徳性に欠け、取り返しもつかないことをしてしまうのは、トップダウンの組織が持つ脆弱性や、各個人の参画意識、主権者としての意識が欠けているからだという。子どもたちは対話し考える力を持っている。学校の中で、少しでも時間を取って、生徒に考えさせ、対話の場を作って主権者を育てていくことが大切だと強く思った。

(山口良二)

めんどくさいからおもしろいへ

駿河総合
袴田 康子



「思っていたよりおもしろかった」「子ども哲学」に参加した高校生の感想だ。小学生や中学生と「生と死」について意見をぶつけ合う。高校生にとってもさほど魅力的でなかったのだから、いざ参加してみようと思った。変わったようだ。

校舎借用の要請は四月末、正直めんどくさい。校長に打診してみると「いいよ」との返答。

月一の打ち合わせは毎回めんどくさいと思いきや足を運んだ。

当日は準備に追われた。二日目は昼から餅をつくといい。餅なんて「あべかわ」「いそべ」だ

「思っていたよりおもしろかった」「子ども哲学」に参加した高校生の感想だ。小学生や中学生と「生と死」について意見をぶつけ合う。高校生にとってもさほど魅力的でなかったのだから、いざ参加してみようと思った。変わったようだ。

校舎借用の要請は四月末、正直めんどくさい。校長に打診してみると「いいよ」との返答。

月一の打ち合わせは毎回めんどくさいと思いきや足を運んだ。

当日は準備に追われた。二日目は昼から餅をつくといい。餅なんて「あべかわ」「いそべ」だ

「思っていたよりおもしろかった」「子ども哲学」に参加した高校生の感想だ。小学生や中学生と「生と死」について意見をぶつけ合う。高校生にとってもさほど魅力的でなかったのだから、いざ参加してみようと思った。変わったようだ。

校舎借用の要請は四月末、正直めんどくさい。校長に打診してみると「いいよ」との返答。

月一の打ち合わせは毎回めんどくさいと思いきや足を運んだ。

当日は準備に追われた。二日目は昼から餅をつくといい。餅なんて「あべかわ」「いそべ」だ